樋、鳥屋野の逢竹、小山田の彼岸櫻、梅護寺の珠數樹櫻、小木の御所櫻、岩船の饅頭岩、笹川流、筈堅八幡宮社叢、岩船郡粟島等の記錄である、中にも饅頭岩と其化石及粟島の岩石地質は、いかにも珍らしく讀んだ。（藤田）

○明治初年北海紀聞

清野謙次編　岡書院發行

定價二圓八十錢

京大醫學部教授清野博士は其親戚安場保和家の土藏から得られた北海道や千島への明治十七年保和氏の巡回日記、明治九年千島三郡取調書、金子堅太郎子の建議書等を集められたもので、これによつて北海道開拓の初代の様子がよくわかる。北海道史の好資料である。

雜報

○鐵鑛の世界産額

鐵鑛の世界産額は一九二七年一億七千噸なりしに、一九二八年一億七千二百噸となれり、英國は一九二九年に二百萬噸を增産したるも、一九一三年に比して八二%六、一九一三年には世界の總産額中の九%、なりしも一九二八年に六%に減じたり、獨逸はエルサスローレンを失ひ一九一三年に世界の産額の一六%をしめしに、一九二九年には三%八に激減し、ために鐵鑛の輸入は千三百八十萬噸に達した、今一九二八、九年の主要鑛産國を表示せん。

ドイツ	六、三四〇、〇〇〇噸
アメリカ	七四、一六〇、〇〇〇噸
エルサスローレイン	三、三六九、〇〇〇
ルクセンブルク	七、四七一、〇〇〇
ベルギー	一四〇、〇〇〇
佛蘭西	五〇、五六六、〇〇〇
（エルサスローレンを含む）	
イギリス	一三、四二六、〇〇〇
伊太利	八二七、〇〇〇
ノルウエー	七四六、〇〇〇
オーストリヤ	一、八六六、〇〇〇
ポーランド	六五九、〇〇〇
瑞典	二、四六八、〇〇〇
スペイン	六、五四七、〇〇〇
ニューフアンドランド	一、四一〇、〇〇〇
キユバ	六五二、〇〇〇
チリ	一、八〇〇、〇〇〇
アルゼリヤ	△三、一六五、〇〇〇
チユニス	九七、〇〇〇
英領印度	二、四六八、〇〇〇
日本	△一七二、〇〇〇
朝鮮	△四四三、〇〇〇
滿洲	△六九五、〇〇〇
濠洲	八六七、〇〇〇
總計	△一七二、三〇〇、〇〇〇

△印は一九二八年度

第二表　主要國別年産額

	一九一三年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
獨逸	三五、四一、〇一〇	六、六六六、〇〇〇	六、四七五、〇〇〇	六、三四〇、〇〇〇
ベルギー	一五一、〇〇〇	七、四三〇、〇〇〇	七、一八一、〇〇〇	七、七二一、〇〇〇
フランス	二一、九八、〇〇〇	四五、四六、〇〇〇	四九、〇〇八、〇〇〇	五〇、五六、〇〇〇
イギリス	一六、二五三、〇〇〇	一一、三八六、〇〇〇	一一、四四三、〇〇〇	一三、四二六、〇〇〇
アメリカ	六二、九二七、〇〇〇	六二、七二九、〇〇〇	六一、一九二、〇〇〇	七四、一九六、〇〇〇

○世界鐵鋼生産額

世界の鐵鋼界は大戰終熄と共に一時一齊に不振に陷りしが其後世界産額は增進するにも拘はらず

鐵鋼に對する需要は却て減少し、從つて市價の低落は最近愈甚しくその結果は一九二九年を轉機として銑鋼共に產額減少するに至つた。之を表示せんに、

年	銑	鋼
一九一三	七七、七二〇、〇〇〇噸	七四、八三〇、〇〇〇噸
一九二六	七七、六七〇、〇〇〇	九一、七九〇、〇〇〇
一九二七	八五、二七〇、〇〇〇	一〇〇、一八〇、〇〇〇
一九二八	八六、九六〇、〇〇〇	一〇八、二二〇、〇〇〇
一九二九	九六、一八〇、〇〇〇	一一七、八五〇、〇〇〇
一九三〇	七九、〇〇五、〇〇〇	九四、七〇五、〇〇〇

○ソヴイエツト聯邦のダンピング

ロシヤが木材を廉價に販賣するのでフインランドは大に困つてゐる、一九三〇年になつて著しく木材の輸出が減じたのみでなく、ヘルシングフオルスではソヴイエツト製の廉價な砂糖や羅紗地が輸入されて市價を擾亂してゐる。ソヴイエツトでは其品物が極めて廉價に出來る。何となれば個人には國定の報酬を與へて働かすと同時に產物はすべて國家管理にうつるからである。他國は之を不當廉賣だといふけれども、ソヴイエツトにしてみれば不當ではない、他國の經濟組織が不當なから高い價になつてゐるのだといふかもしれぬ。

フインランドの一製函株式會社はソヴイエツトから木材を購入して、自國の木材を賣はないことを認めた、豐富な木材國たるフインランドでさへ、さうした廉價な木材が輸入されうるとしたら、其影響は多きい、小麥を安價にシカゴの市場に賣り出して、米國の農民に危惧を與へたロシヤは、本年になつて其棉花をランカシヤに賣り出した。七萬俵の大量が一週間内にランカシヤに着荷した。過去七ケ月間に約百萬磅の露棉が來たが三月二日から七日迄の間に記錄的數量五萬四千俵に上つた。然るにアメリカ棉は僅に七千俵しか入らなかつた。アメリカの棉花業者はこのことに非常に危惧を持ちだしてゐる。

マンチエスターの商人の云ふ所によると露棉は品質テキサス物に匹敵する程良好である。勿論埃及棉には及ばないが、露棉四割と米棉六割を混ぜると、とてもよい絲になるといふことである。價は米棉よりも封度につき四分一片乃至二分一片は安價だといふことだ。

さうしてロシヤの棉花は數年前四十萬俵しか出來なかつたけれども、今日は百二十五萬俵の大量を產出するといつてゐる、これも慥かなことはわからぬけれども、ソヴイエツトの統治が完成するにつれて、尨大なロシヤがたゞ一つの單體として國家的貿易を營むやうになつたとき、之に驚かされるのは獨りフインランドや、アメリカの棉花製造者のみではない筈である。果してこの棉花がロシヤで出來るものであらうかどうかいづれにしても驚くべき事實である。

○濠洲向本邦陶器

近年濠洲に陶器製造を開始したけれども搖籃時代であるから、多くは輸入である。最近二年間

左の如くに輸入された。

磁器	一九二八	一九二九
英國	二三七、八五〇磅	二三四、七二八
日本	七一、三〇六	九三、二三〇
ドイツ	四六、四〇九	四〇、三六二
チェッコ	三九、七四六	三〇、六一四
其他	七、七七七	八、七九九
計	四〇三、〇八八	四〇七、七三三
陶器		
英國	三一五、九〇四	三〇六、五七三
ドイツ	一四、八〇五	一〇、六一七
チェッコ	五、七八六	五、四一八
日本	二、一一六	三、七八七
其他	六、四六八	七、三五三

即ち英國品七三%日本品一三%、ドイツ六%致須國五%、其他四%である。英國のは大小各種で上等品である。しかし日獨品は大物よりも小型で下級品が多い、英國品は磁器よりも陶器、他國は陶器よりも磁器が多い、こゝで日本のものをみると、チーセット、サラダセット、コーヒセット、各種皿、スキート皿、チーポット(茶容)各種ボール、花器、其他裝飾品である、英國品は特惠待遇で從價三割九分に對し、日本品は六割四分の高率である、けれども日本陶器と名古屋製陶兩會社は著しく進歩し、英國品と對抗してゐる、下級品では意匠はわるいが、價格でドイツ、致須兩國に對抗してうりひろめてゐる。

本邦品下等もので白地に金線の入つたカップソーサーは一打が三志三片から五志三片に達し上物は中流の家庭に下流及地方に廣く用ひられる、他國ものはとても、日本品に勝てないといふ、近頃日本の品物が段々增進し、英、獨品は退縮してゐる傾であるから、稅關が高くても見込があるらしい、たゞ日本商人が競爭して賣り崩をしないやうにすればよいがと心配する、この國では米國趣味よりも地味な英國ものを喜ぶからそのつもりでやつてほしい。

○李保羅に關する藤田元春先生の感違ひ

「地球」第十五卷第二、三號に文學士藤田元春先生の「利瑪竇の坤輿萬國全圖に就て」と云ふ論文が出た。その中に次の樣な一節がある。即ち「その後基督教徒たる支那人李保羅（恐く李之藻ならん）なるものが、教士の助力を行て(得て?)第四版をつくつたといふ。予はこの四版を疑ふ。第三版既に李之藻の助力で出來てゐるからである。中略

以上はブラッドレーの意見であるが、幸に京大本のうちに利瑪竇の自序がある、それを見る方が早くて且つ正確であるから今之を左に摘記する、利瑪竇自身の云ふ所は左の如くであつて、「李保羅の第四版なるものについては何等の言及がない。何となればこれが第三版であるからである」と云ふのであるこの文句はどう云ふすぢあひのものかと云へば同論文を讀んだ者には明かであらうが參考の爲に申せばかうである。

即ち Geographical Journal 1917 Oct. に J.F. Baddeley の書いた "Father Matteo Ricci's Chinese World-Maps, —1534—1604" と云ふ論文の中に利瑪竇の世界地圖作製由來が詳く述べられてゐるが、それに依ると、第一版が廣東肇

慶府で一五八三年に、第二版が南京で一五九九年に、第三版がLingozu n の請により北京で一六〇二年に出たがこの世界地圖は非常に歡迎されて人々の需用をみたすことが出來なかつた。そこでa certain Christian, aided by our people, made another version;—とあり、即ちこゝで第四版が或クリスチアンによつて出來たと云ふのである。この或クリスチアンに就ては同論文の他の所にLi Paulo だとある。さて問題はこのリ・ポーロにある。藤田先生はこのリ・ポーロを李之藻だらうと考へられた。ところが實はポーロと云ふのは徐光啓の洗禮名である。Li（藤田先生の所謂李）はLとSの花文字の類似から來た感違ひに相違ない。このことは座右の參考書一册を繰るの勞をいとはないなら忽ち氷解することであるから初學者の私が敢て云ふを要しないであらう。だが然し誠に不思議なことは徐光啓の洗禮名がポーロであることは少く共東洋史を一度繙いた人々に取つて頗るつきの常識であるもれ承る所によれば藤田先生は徐光啓にも關係の淺からぬ地理學史の大家であられるさうであるにも拘らずLiと來たから直ちに李之藻だらうと推定されたのは返す〳〵も不可思議である。例へLiとあつてもPauloとあつたら一應徐光啓ではなからうかとの問を起して見る必要はなからうか。ついでに申して置くが李之藻にはLi Li'onと云ふ洗禮名があつたPauloとは一寸感違ひが大きいやうに思へる。そこで藤田先生のバッドレーが云ふ第三第四版が同一のものだと云ふ唯一の理由は李之藻がその兩版作製にあづかつたから、即同一人が再度地圖作製にあづかつたから第三版と第四版は同一のものだと云はれたのである。處が藤田先生の同一人と考へられたのは不圖も全く別人であつた。從つて藤田元春先生の第三版第四版同一說の根據理由は跡片もなく解消したわけになる猶藤田先生は傍證として京都帝大所藏の利瑪竇坤輿萬國全圖に於て「李保羅の第四版なるものについて何等の言及がない」ことをもつてせられたが、これは亦京大の同圖に第四版に就て何等言及のないのが當然、あつたら夫こそ不思議に相違ない、何となら京大にある同地圖は一六〇二年版即所謂第三版である。第四版はいづれその後に出來たものである。現今の豫約出版と違つて將來出るか出ないか分らない第四版に就て第三版で云々する筈がない。之は確に乏證或はむしろ暴證であるかも知れない。以上私は藤田先生のバッドレー氏の第四版否定の理由は先生の簡單なる感違ひから出た何等否定の理由を構成しない理由を述べたのでバッドレー氏の所謂第四版の有無を論じたのではない。藤田先生に取つてはこんなことはどうでもいゝ問題かも知れない。併し若しこゝに徐光啓を研究する我々僚友があるとすれば徐光啓が耶蘇教士の助力を得て世界地圖を作つたか否かは重大問題であるに違ひない。これが私の身の程も顧みず鈍筆を驅つた所以である。後學の人々に取つては先學の單なる感違ひと雖もその及ぼす影響は決して少くない。願はくは藤田先生速にこの感違ひを正されんことを。（日本大學文學部史學科學生　鮎澤信太郎）